

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前

## 【「話すこと・聞くこと」の問題】

会話の内容から質問の言葉を考える問題】

- 1 次の文を読んで、あとの問いに答えましょう。

まゆみさんが、南町図書館の館長さんにインタビューをしています。

まゆみ 「こんにちは。わたしは、南小学校の北川まゆみです。きょうは、館長さんに図書館のことを聞きにきました。よろしくおねがいします。はじめに、ここではたらいっている人は、何人いますか。」

館長 「わたしもふくめて全員で四十人です。多くの仕事があるので、みんなで手分けをしてはたらいっています。」

まゆみ 「たくさんの方がはたらいっているんですね。ここではたらいっている人は、  
A

館長 「図書館での仕事は、本のかし出しや本の相談、図書館のそうじなどをして  
います。来てくれた子どもたちに読み聞かせもします。」

まゆみ 「いろいろな仕事があるんですね。  
この図書館には  
B

館長 「この図書館は、日本のお話や外国のお話、絵本などたくさん本があります。とくに、子ども向けの本がたくさんそろっているので、たくさんの子  
どもたちに来てもらい、本を読んでほしいですね。」

まゆみ 「わたしも本を読みに来たくなりました。たくさんのことを教えていただき、  
ありがとうございました。」

一 インタビューの A と B の部分で、まゆみさんは、館長さんにどんなことを聞いていますか。 に当てはまるように、まゆみさんが言った言葉を考えて書きましょう。

レベル6

(1)

「たくさんの方がはたらいているのですね、ここではたらいている人は、

A

」。

(2)

「いろいろな仕事があるのですね。この図書館には

B

」。

埼玉県学力・学習状況調査



ユバトン

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	<b>模範解答</b>

【「話すこと・聞くこと」の問題】

【会話の内容から質問の言葉を考える問題】

1 次の文を読んで、あとの問いに答えましょう。

まゆみさんが、南町図書館の館長さんにインタビューをしています。

まゆみ 「こんにちは。わたしは、南小学校の北川まゆみです。きょうは、館長さんに図書館のことを聞きにきました。よろしくおねがいします。はじめに、ここではたらいっている人は、何人いますか。」

館長 「わたしもふくめて全員で四十人です。多くの仕事があるので、みんなで手分けをしてはたらいっています。」

まゆみ 「たくさんの方がはたらいっているんですね。ここではたらいっている人は、  
A

館長 「図書館での仕事は、本のかし出しや本の相談、図書館のそうじなどをして  
います。来てくれた子どもたちに読み聞かせもします。」

まゆみ 「いろいろな仕事があるんですね。  
この図書館には  
B

館長 「この図書館は、日本のお話や外国のお話、絵本などたくさん本があります。とくに、子ども向けの本がたくさんそろっているので、たくさんの子  
どもたちに来てもらい、本を読んでほしいですね。」

まゆみ 「わたしも本を読みに来たくなりました。たくさんのことを教えていただき、  
ありがとうございました。」

一 インタビューの A と B の部分で、まゆみさんは、館長さんにどんなことを聞いていますか。 に当てはまるように、まゆみさんが言った言葉を考えて書きましよう。

レベル6

(1)

「たくさんの人がはたらいているのですね、ここではたらいている人は、

A どのような仕事をしていますか。

※同様の答えは正答とします。

(2)

「いろいろな仕事があるのですね。この図書館には

B どのような本がありますか。

※同様の答えは正答とします。

まゆみさんのしつ問に対して、館長さんが答えています。つまり、まゆみさんのしつ問の内容は、 A B の後の館長さんの話から考えることができます。



埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前

## 【「書くこと」の問題】

- 1 Aさんは、国語の学習でいろいろな遊びについて調べ、そのルールについてまとめました。メモ⑦⑧⑨の中から、あなたが遊んでみたいものをえらび、〈注意〉をまもって書きましよう。

レベル7

メモ

### ⑦三色おにごっこゲーム

- ①まず集まった人を、「青組」「赤組」「白組」の三つに分ける。  
（色は何色でもよい。人数によつては、チームの数をふやすこともできる。）
- ②青は赤からにげ、赤は白からにげ、白は青からにげる。タッチをされたら、そのじんちに連れていかれる。
- ③決められた時間をたたかい、相手をつかまえた数をもっとも多かったチームが勝ちとなる。

### ⑧聞き耳ゲーム

- ①四く五名のグループになり、聞き取り役を一名と言葉を言う人に分ける。
- ②言葉を言う人たちでテーマを話し合い、テーマにあった言葉をそれぞれ決める。
- （例）テーマがくだもの・言葉を言う人が四人の場合
- Aさん↓りんご、 Bさん↓バナナ、 Cさん↓パイナップル、 Dさん↓みかん
- ③合図で、言葉と言う人が決めた言葉をいつせいに言う。
- ④聞き取り役は、聞こえた言葉から、テーマを当てる。
- ⑤聞き取り役がテーマを当てたら、聞き取り役の勝ちとなる。

### ⑨ろくむしゲーム

- ①二十メートルほどはなれた場所に二つ円をかく。
- ②二人のオニと、子（オニいがい）を決める。
- ③二人のオニは、子をねらってボールを投げ合う。子はオニが投げるボールをよけながら、はなれた円の間を行き来（おうふく）する。
- ④ボールに当たらずに「おうふくしたら「いちむし」、二おうふくしたら「にむし」・・・となり、「ろくむし」まで行けば子の勝ちとなる。



埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	<b>模範解答</b>

## 【「書くこと」の問題】

- 1 Aさんは、国語の学習でいろいろな遊びについて調べ、そのルールについてまとめました。メモ①②③の中から、あなたが遊んでみたいものをえらび、〈注意〉をまもって書きましよう。

レベル7

## メモ

### ②三色おぼろ（おぼろ）ゲーム

- ①まず集まった人を、「青組」「赤組」「白組」の三つに分ける。  
（色は何色でもよい。人数によっては、チームの数をふやすこともできる。）
- ②青は赤からにげ、赤は白からにげ、白は青からにげる。タッチをされたら、そのじんちに連れていかれる。
- ③決められた時間をたたかい、相手をつかまえた数をもっとも多かったチームが勝ちとなる。

### ④聞き耳ゲーム

- ①四〜五名のグループになり、聞き取り役を一名と言葉を言う人に分ける。
- ②言葉を言う人たちでテーマを話し合い、テーマにあった言葉をそれぞれ決める。
- （例）テーマがぐだもの・言葉を言う人が四人の場合
- Aさん↓りんご、Bさん↓バナナ、Cさん↓パイナップル、Dさん↓みかん
- ③合図で、言葉を言う人が決めた言葉をいっせいに言う。
- ④聞き取り役は、聞こえた言葉から、テーマを当てる。
- ⑤聞き取り役がテーマを当てたら、聞き取り役の勝ちとなる。

### ⑤ろくむしゲーム

- ①二十メートルほどはなれた場所に二つ円をかく。
- ②二人のオニと、子（オニいがい）を決める。
- ③二人のオニは、子をねらってボールを投げ合う。子はオニが投げるボールをよくながら、はなれた円の間を行き来（おうふく）する。
- ④ボールに当たらずに「おうふくしたら」「いちむし」、二おうふくしたら「にむし」・・・となり、「ろくむし」まで行けば子の勝ちとなる。

- 〈注意〉
- 1 二段落で、五行以上、六行以内で書くこと。
  - 2 一段落目には、遊んでみたいと思った遊びの名前をメモ⑦⑧⑨の中からえらんで書くこと。
  - 3 二段落目には、えらんだ理由を書くこと。

正解の判断について  
 ・一段落目には、メモ⑦⑧⑨の遊びの中から選んで書いていること。  
 ・二段落目には、ゲームの内容について理解し、遊んでみたい理由が五行以上六行以内で書いていること。

〈三色おにごっこゲームの解答例〉

	わ	た	し	が	遊	ん	で	み	た	い	の	は	、	三
	色	お	に	ご	っ	こ	ゲ	ー	ム	で	す			
	理	由	は	、	ふ	つ	う	の	お	に	ご	っ	こ	と
	は	ち	が	い	、	お	い	か	け	て	ば	か	り	だ
	他	の	チ	ー	ム	に	つ	か	ま	っ	て	し	ま	う
	こ	ろ	が	楽	し	そ	う	だ	か	ら	で	す		

〈聞き耳ゲームの解答例〉

	わ	た	し	が	遊	ん	で	み	た	い	の	は	、	聞
	き	耳	ゲ	ー	ム	で	す							
	理	由	は	、	一	度	に	た	く	さ	ん	の	人	の
	言	葉	を	聞	け	な	く	て	も	、	何	人	か	の
	葉	を	聞	き	取	っ	て	、	テ	ー	マ	を	当	て
	れ	そ	う	だ	か	ら	で	す						

〈ろくむしゲームの解答例〉

	わ	た	し	が	遊	ん	で	み	た	い	の	は	、	ろ
	く	む	し	ゲ	ー	ム	で	す						
	理	由	は	、	動	き	が	ド	ツ	ジ	ポ	ー	ル	み
	た	い	で	分	か	り	や	す	い	し	、	よ	け	な
	ら	走	る	の	は	楽	し	そ	う	だ	か	ら	で	す



埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前
---	----	----

【物語を読んで答える問題】

1 次の文を読んで、あとの問題に答えましょう。

（※川の中の魚の子供こどもと母親の様子ようすがえがかれている場面です。）

花は、水の上に浮うかんで、流れ流れてゆきました。しかし、後から、後から、花がこぼれ落ちてきました。

「どんなに、おいしかろう。」と、いつて、三びきの魚の子供は、ついにその花びらをのんでしまいました。

その子供らの母親は、その翌日よけじつ、我が子の姿すがたを見て、さめざめと泣いたのです。「あれほど、花びらをたべてはいけなかつたのに。」と、いきました。

黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色かみいろになっていからです。

【中略ちゅうりやく】

（※町の人間の子供と母親の様子ようすがえがかれている場面です。）

町では、子供たちの母親が心配しんぱいいたしました。

「どうして、そう毎日川へばかりゆくのだえ。」と、子供たちをしっかりとしました。

「だって、赤い魚がいるんですもの。」と、子供は答えました。

「ああ、昔むかしから、あの川には赤い魚がいるんですよ。しかし、それを捕とらえるとよくないことがあるというから、けつして、川などへいつてはいけません。」と、母親はなはいいました。子供たちは、母親がいったことをほんとうにしませんでした。どうかして、赤い魚を捕つかまえたいたものだど、毎日、川のふちへきてはうろついでいました。

（出典 小川 未明 「赤い魚と子供」）

（1） \_\_\_\_\_ アの「それ」とは何のことですか。三字で書きぬきましょう。 **レベル6**


(2) | イの後、子供たちがどうしたのかをまとめた文の□に当てはまる言葉を文中からさがし、それぞれ四字で書きぬきましょう。レベル6

母親がいったことを


にはせず、赤い魚を捕つかまえるために

をうろついた。


(3) さめざめと泣いたのです。の理由として、もつともふさわしいものを次の1～4の中から一つえらびましょう。レベル6

- 1 子供の魚の色が、ちがう色に変わってしまったから。
- 2 赤色や白と赤の斑色の花が流れてきたから。
- 3 子供の魚が、病気になってしまったから。
- 4 三匹の子供のうち、一匹がいなくなってしまったから。

--



埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前
<b>模範解答</b>		

## 【物語を読んで答える問題】

1 次の文を読んで、あとの問題に答えましょう。

（※川の中の魚の子供と母親の様子があがられている場面です。）

花は、水の上に浮かんで、流れ流れてゆきました。しかし、後から、後から、花がこぼれ落ちてきました。

「どんなに、おいしかろう。」といって、三びきの魚の子供は、ついにその花びらをのんでしまいました。

その子供らの母親は、その翌日、我が子の姿を見て、さめざめと泣いたのです。「あれほど、花びらをたべてはいけないといったのに。」といいました。

黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたので、黒い子供は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたので、黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたので、黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になってい

## 【中略】

（※町の人間の子供と母親の様子があがられている場面です。）

町では、子供たちの母親が心配いたしました。

「どうして、そう毎日川へばかりゆくのだえ。」と、子供たちをわかりました。

「だって、赤い魚がいるんですもの。」と、子供は答えました。

「ああ、昔から、あの川には赤い魚がいるんですよ。しかし、それを捕らえるとよくないことがあるというから、けっして、川などへいってはいけません。」と、母親はいいました。子供たちは、母親がいったことをほんとうにしませんでした。どうかして、赤い魚を捕まえたものだど、毎日、川のふちへきてはうろついていました。

（出典 小川 未明 「赤い魚と子供」）

（1） \_\_\_\_\_ アの「それ」とは何のことですか。三字で書きぬきましょう。レベル6

「それ」の前にある言葉をさがします。捕らえるものは「赤い魚」であることがわかります。

赤  
い  
魚

(2) ———— イの後、子供たちがどうしたのかをまとめた文の□に当てはまる言葉を文中からさがし、それぞれ四字で書きぬきましょう。レベル6

母親が言ったことを

ほ ん と う

にはせず、赤い魚を捕ま<sup>つか</sup>えるために

川 の ふ ち

をうろついた。

———— イの後の子供たちの様子を読みとります。

・子供たちは、母親がいったことをほんとうにしませんでした。

・(子供たちは) どうにかして、赤い魚を捕まえたものだど、毎日、

川のふちへきてはうろついています。

という内容から、□に合うように言葉を書きぬきます。

(3) さめざめと泣いたのです。の理由として、もつともふさわしいものを次の1～4の中から一つえらびましょう。レベル6

1 子供の魚の色が変わってしまったから。

2 赤色や白と赤の斑色の花が流れてきたから。

3 子供の魚が、病気になってしまったから。

4 三匹の子供のうち、一匹がいなくなってしまうから。



1

理由をたずねる問題です。

理由を表すときには、「～から」「～ので」「～ため」などの言葉を使って書かれることが多くあります。

この文章中では、「黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたからです。」とあり、子供の魚の色が変わってしまったことが理由だとわかります。

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前
---	----	----

【同音異義語の漢字を文脈に即して正しく使う問題】

1 次の文の \_\_\_\_\_ のカタカナを漢字で書く場合、正しいものをあとの1～4の中から、それぞれ一つえらびましょう。 **レベル3**

(1) シュウ中して勉強する。

- 1 週      2 習      3 終      4 集

(2) 暗くなる前に、早くカエル。

- 1 返る      2 買える      3 帰る      4 代える

【漢字の音読みと訓読みを理解する問題】

2 次の \_\_\_\_\_ 線部の漢字の読み方を書きましょう。また、「音」と「訓」のどちらの読み方か、書きましょう。 **レベル7**

(1) 広間に集まる。

読み方

音・訓

(2) 広大な土地。

読み方

音・訓

【文の構成を理解する問題】

3 次の文の主語・述語を \_\_\_\_\_ 線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。 **レベル7**

(1) きのう わたしは 友達と 児童館で 遊んだ。

主語

述語

(2) 水族館で 見た 魚には、青く 大きな ひれが あった。

主語

述語

【文と文のつながり方と接続詞の働きを理解する問題】

4 次の□の中の文を、意味を変えずに、二つの文にします。

□に入る言葉を、あとの□の中からえらび、二つの文にして書きましょう。

レベル6

雨がふりそうな天気だが、かさを持っていない。



れい たくさん走ったので、足がいたかった。

たくさん走った。

だから

足が痛かった。

Two large empty rectangular boxes for writing the answer.

だから つまり しかし また

【指示語の役割を理解する問題】

5 次の文の□は、何を指していますか。文章中より書きぬきましょう。

レベル6

近所のおばさんが、水玉もよりのワンピースを作ってくれた。次の日、わたしはそれを着て、友達の家遊びに行った。

Large empty rectangular box for writing the answer.

【反対の言葉を理解する問題】

6 □の言葉と反対の意味の言葉を、書きましょう。

レベル5

電車が動く。

Large empty rectangular box for writing the answer.

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	<b>模範解答</b>

【同音異義語の漢字を文脈に即して正しく使う問題】

1 次の文の \_\_\_\_\_ のカタカナを漢字で書く場合、正しいものをあとの1～4の中から、それぞれ一つえらびましょう。

(1) シュウ中して勉強する。

- 1 週      2 習      3 終      4 集

4

(2) 暗くなる前に、早くカエル。

- 1 返る      2 買える      3 帰る      4 代える

3

返る⇨もとにもどす      変える⇨今までとちがったものにする  
 帰る⇨もとの場所へもどる      代える⇨あるものに、ほかのものの役目をさせる

【漢字の音読みと訓読みを理解する問題】

2 次の \_\_\_\_\_ 線部の漢字の読み方を書きましょう。また、「音」と「訓」のどちらの読み方か、書きましょう。**レベル7**

(1) 広間に集まる。

読み方

ひろま

音・訓

訓

(2) 広大な土地。

読み方

こうだい

音・訓

音

中国から入ってきた発音を元にした読み方が「音」です。  
 もともと日本にあったことばに漢字を当てはめた読み方が「訓」です。

【文の構成を理解する問題】

3 次の文の主語・述語を \_\_\_\_\_ 線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。**レベル7**

(1) きのう わたしは 友達と 児童館で 遊んだ。

主語

2

述語

5

(2) 水族館で 見た 魚には、青く 大きな ひれが あった。

主語

6

述語

7

主語は、「だれが(は)」「何が(は)」に当たることばです。  
 述語は、「どうする」「どんなだ」「なんだ」に当たることばです。

【文と文のつながり方と接続詞の働きを理解する問題】

4 次の□の中の文を、意味を変えずに、二つの文にします。

□に入る言葉を、あとの□の中からえらび、二つの文にして書きましょう。

雨がふりそうな天気だが、かさを持っていない。

れい たくさん走ったので、足がいたかった。

たくさん走った。

だから

足が痛かった。



雨がふりそうな天気だ。

しかし

かさを持っていない。

だから つまり しかし また

だから||前の文から予想される文が次に来ることを表す。  
つまり||前の文についての説明を表す。

しかし||前の文と反対になるような文が次に来ることを表す。

また||前の文に、後ろの文をつけくわえることを表す。

ここでは、「雨がふりそうな天気」に対して「かさを持っていない」と反対の内容が続くため、「しかし」を用います。

【指示語の役割を理解する問題】

5 次の文の□は、何を指していますか。文章中より書きぬきましょう。

レベル6

近所のおばさんが、水玉もよりのワンピースを作ってくれた。次の日、わたしはそれを着て、友達の家に遊びに行った。

こそあど言葉は、文章中の言葉を指し示すときにも使います。ここでは「それ」に「着る」が続くため、直前の文の「水玉もよりのブラウス」を示していると分かります。

水玉もよりのワンピース

反対の意味の言葉にはいろいろな組み合わせがあります。

例 「上る」と「下る」

「行く」と「帰る」

【言い切りの形に直す問題】

6 □の言葉と反対の意味の□の言葉を、書きましよう。

電車が動く。

止まる